



佐々木大三郎 議員
(市民クラブ)
一問一答方式

豪雨災害対策を問う

問……………

先の台風10号に関し、避難準備情報や避難指示の発令方法に改善の余地があったのでは。例えば、遠野テレビで河川水位や降雨状況を実況放映しながら避難を呼びかけるべきではなかったか。

答……………

「東日本豪雨災害対策検証チーム」を設置し、課題の集積や対応等について検証した。今後はタイムラインの策定

や、防災行政無線・遠野テレビなどによる避難の呼びかけを検討する。

問……………

避難指示が発令された地域の避難状況はどうだったか。特に一人暮らし高齢者や体の不自由な方の避難状況は。また、避難しなかった理由は何か。

答……………

対象者577名中1

20名(約21%)が避難し、要支援者は4名だった。また、避難しなかった理由は、指定避難所以外の安全な場所へ避難した、高台等の安全な場所において避難の必要性を認識しなかった、市の避難情報が分からなかった、というものである。

問……………

自主防災組織の行動内容と課題は何か。

答……………

自主防災組織が十分に機能しなかったという反省から、自主防災組織と消防団の連携やリーダーの育成、行動マニュアル作成、適切な情報伝達と避難について、今後の防災訓練に生かすことが重要である。

空き家対策の方針は

問……………

今年度実施中の空き家調査結果を受けて、今後どのように対策を講じようとしているか。

答……………

空き家情報をデータベース化し、活用可能なものは空き家バンクへの登録を促し、所有者と利用希望者へき

め細かに対応する。利用可能な空き家は所有者の自己保全・自己判断の意識を高める啓蒙活動に取り組む。

問……………

老朽が著しい空き家に対し、助言や勧告、命令に従わなかった場合に行政代執行まで想定しているか。

答……………

状況により行政代執行も必要と考える。執行に当たっては、第三者機関の意見を聞き客観的な視点から判断したうえで、の執行など慎重に扱う。



豪雨による河川の氾濫状況 (土淵町柵内地区)



菊池 美也 議員
(政和クラブ)
一問一答方式

保育園に求めることが多いのでは

問……………

保育士の過重労働が問題になっている。大切なのは、より良い心身の状態です。子どもの世話を集中してもらおうこと。保護者の意識の改革も必要ではないか。家庭ですること、地域でやれることまで保育園に背負わせているのではないか。

答……………

保護者が保育園に期待することも理解できるとは。しかし、過度な期待となつていくことがあつたら、見直しも必要。子育て支援制度も踏まえ、保育環境の改善に向けた取り組みを検討する。保育園で働くスタッフにとつて何が一番良い事なのか、また、そのことが子どもの育ちの環境改善にもつながるのか、

「産んでも大丈夫」というメッセージの発信を

問……………

女性が働きながら子供を持つのは大変。それを助ける父親も支援しよう。それでもふたりだけでは大変だから、社会全体で支援する。「男性が育児することへの男性本人・職場の抵抗感」を払拭する気運の醸成が必要と考え。新米パパに、産休を与えてはどうかか。

答……………

どうすれば妻の出産や育児などを理由とした休暇を取得しやすい雇用環境になるのか、さまざまな角度から検証する。それが企業への奨励金や人材確保なのか、休業中の経済支援なのか、ケースによってどのような形が有効か検討していく。さらに、父親の育児参加を促進するよう意識啓

問……………

「あなたの子育ては大丈夫です!」という心強い宣言を女性に届けるべきでは。

答……………

仕事と育児の両立が大変であることは十分に認識している。子どもを健やかに育てることの第一義的責任は親にあるが、総じて、育児の中心を担っているの



▼出産前のファミリー教室
子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性がもっと多くなれば、妻である女性の生き方や、子どもたちの可能性が大きく変わっていくはず

※子ども・子育て支援新制度
平成27年4月スタート。幼児期の教育や保育、地域での子育てを総合的に支援する制度。

市町村は子育て家庭の状況や、子育て支援へのニーズを把握し、5年間を計画期間とする「子ども・子育て支援事業計画」をつくる。